

第1学年〇組 音楽科 学習指導案

中学校・音楽

実施期間 令和〇年〇月
指導者 〇〇 〇〇〇

1 題材の構想

曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう (器楽教科書P.〇〇~P.〇〇「聖者の行進」)

子どもの姿	<p>「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりや曲の背景(文化や歴史)について理解し、それらを生かして表現に必要な技能(タンギングやアーティキュレーション)を習得して演奏している。また、器楽の学習に協働的に取り組むことで、音楽を学習する楽しさや喜びを実感し学んだことを生活の中でも生かそうとしている。</p>		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
題材の目標	<p>①「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>②創意工夫を生かした表現で「聖者の行進」を演奏するための必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。</p>	<p>①「聖者の行進」の旋律、音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現を創意工夫する。</p>	<p>①「聖者の行進」の曲想を感じ取ってリコーダーの奏法を工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。</p>
目標に向かうための手立て	<p>〇「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」</p> <p>【めあて】 学習の方向性を示すために、前時の振り返りをモニターで紹介する。また、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法(タンギング、アーティキュレーション)について板書をして置き、めあての到達に向かう思考のヒントとなるようにする。</p> <p>【振り返り】 毎時の終わりにはその時間を振り返る場面を設定し、自分自身の課題に気付いたり、自身の変容を自覚したりして、次の学びにつなげられるようにする。その際、ペアで演奏したものを録音することで、自分たちの演奏を客観的に振り返ることができるようにする。</p> <p>【対話】 ペアの音を聴きながら合わせて演奏するために、音楽の掛け合いや旋律の役割、強弱のバランス、始めるときにどのような息づかいがふさわしいかについても対話できるようにする。また、他のペアとタブレットで録音した相互の演奏を聴き合う活動をする際、相手の演奏を聴いた時に感じたことを明確化させるために、アドバイスカードを使う。もらったアドバイスは、今後の演奏に活かすように促す。</p>		
子どもの実態 40人	<p>①「喜びの歌」の旋律を的確に演奏する技能を身に付けている生徒が90%いる。</p> <p>②創意工夫を生かすための体の使い方のうち、タンギングに課題がある生徒がいる。</p>	<p>①曲に対するイメージをもつことに苦手意識がある生徒が24%いる。思いや意図をもつことはできるが、知識や技能を得たり生かしたりしながら表現を工夫することに課題を感じている生徒もいる。</p>	<p>①アルトリコーダーの演奏を楽しんでいる生徒は88%いるが、アルトリコーダーの演奏をするときに、他教科や他領域(創作、歌唱、鑑賞)との関連を意識して学習していない生徒は33%いる。</p>

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(知識)</p> <p>②創意工夫を生かした表現で「聖者の行進」を演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。(技能)</p>	<p>①「聖者の行進」の旋律、音色、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①「聖者の行進」の曲想を感じ取ってリコーダーの奏法を工夫することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

指導と評価の計画（4時間取り扱い ●本時3/4）

課題等	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
曲想を感じ取って、 表情豊かに演奏しよう	1	1	○曲想と音楽の構造との関わり及び曲の背景（文化や歴史）を理解する。	【主】 ①学習シート、観察 【知】 ①学習シート
	2	1	○他者の音を聴きながら、アンサンブルの技能を身に付ける。	【技】 ②観察、録音
	3	1	●表現豊かなアンサンブルにするため演奏を工夫する。	【思】 ①学習シート、観察
	1	1	○知識や技能を生かし、創意工夫した演奏をするとともに、音楽活動を楽しむ。	【技】 ②発表

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

互いに助言し、音色（タンギング、アーティキュレーションの奏法）を工夫して演奏することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	7	1 前時までの学習を確認する。 (1)「聖者の行進」を通して演奏する。 (2)前時までの学習内容を確認する。	○「聖者の行進」を演奏しよう。 ○前時までの学習内容を確認しましょう。 ・「聖者の行進」は、黒人の葬式で演奏される音楽。 ・2つのパートのバランスに気を付けて、演奏を録音した。	○前時で学習した奏法を意識させる。 ○文化や歴史と音楽が結びついていることを再確認する。	ピアノ モニター タブレット
		2 本時の目標を確認する。	発表会に向けてタンギング、アーティキュレーションの奏法をアドバイスし合い、イメージに合った演奏になるように工夫しよう。		
展開	2 3	3 演奏を工夫する。 (1)前時に決めた「○○な聖者の行進」が伝わるように、ペアで話し合いながら演奏を工夫する。 (2)録音する。	○全員で、5小節目までを4つのアーティキュレーション（スタッカート、ノンレガート、ポルタート、レガート）で演奏してみよう。 ○9小節目までをペアで話し合いながら、ペアで決めた「○○な聖者の行進」が伝わるようなタンギングやアーティキュレーションを取り入れて練習しよう。	○それぞれの奏法にどのような演奏効果があるかを意識させる。 ○アーティキュレーションは組み合わせられることも伝える。	学習シート タブレット
	1 5	4 他ペアとアドバイスし合い、創意工夫をする。 (1)録音した演奏を聴き合い、カードを記入後、相手ペアにアドバイスカードを送る。 (2)アドバイスを参考に演奏を工夫し、再度録音する。	○ロイロノートのカードにアドバイスを記入して送ろう。 ・「楽しい聖者の行進」になるために、スタッカート奏法を取り入れているけど、少し短く切った方が、音が軽くなって楽しい感じになると思うよ。	○記入することで、感じたことを明確化させる。 ◎【思】 ①表現豊かなアンサンブルにするため演奏を工夫している。	タブレット
終末	5	5 本時の学習を振り返る。	○前時と本時の録音演奏を比較して、身についたことや考えたことを記入しよう。 ○これから他の領域にも学んだことを生かそう。	○めあてに対して振り返らせる。	学習シート

音楽

第4学年0組 音楽科 学習指導案

小学校・音楽

1 題材の構想

せんりつのとくちょうを感じ取る。(教材曲:「陽気な船長」「ゆかいに歩けば」)

題材終了時の児童の姿
旋律の特徴と曲想との関わりが気付き、旋律や強弱などの違いによる表現方法を様々な角度から、思いや意図に合った表現で歌ったり演奏したりしている。また、友達と音や音楽によるコミュニケーションを図って交流し、音楽のよさを共感、共有することで、音楽を楽しむことや喜びを実感している。また、学んだことを生活の中でも生かそうとしている。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
「陽気な船長」「ゆかいに歩けば」の曲想と音楽の構造との関わりなどに気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。	「陽気な船長」「ゆかいに歩けば」の旋律、音色、強弱、音の重なりなどを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと生活の中での音楽にもつながる音楽に生かそうとしている。	曲の特徴を捉えて学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組む。また、生活の中での音楽にもつながる音楽に生かそうとしている。

題材の構想

本時で扱う領域だけでなく、題材で扱う全領域について書く。

ポイント

ポイント

題材終了時の児童(生徒)の姿

これからの音楽科の学習や他教科、実生活、将来に、本学習をどのように生かそうとする子どもを育成したいかを書く。(～しようとしている。等)

ポイント

思考・判断・表現のポイント

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を、2~4つ程度選択し記入する。また、知識・技能との関連を図る。

児童の実態	児童の姿
①曲想は捉えられるが、音楽の構造との関わりをとらえられない児童が4割いる。 ②リコーダーの運指や発声はできているが、タンギング、呼吸や発音を意識して演奏できる児童は5割程度である。	①音楽を形づくっている要素をよりどころとして、思いや意図をもつことができる児童は7割程度である。知識や技能を得たり生かしたりしながら表現を工夫することに課題を感じている児童もいる。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ②思いや意図に合った表現をするために必要な、「タンギングや息の使い方に気をつけて演奏する技能」、「呼吸や発音に気をつけて歌う技能」を身に付けて歌ったり演奏したりしている。	①旋律、音色、強弱、音の重なりなどを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと生活の中での音楽にもつながる音楽に生かそうとしている。	①曲想と旋律の特徴との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。

指導と評価の計画 (5時間取り扱い ●本時4/5)				
課題等	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
1	1	1	○「陽気な船長」と旋律と曲想の関わりが気付き、 ○タンギングや息の使い方に気付けてリコーダーを演奏する。	【知】①ワークシート 【技】②聴取
		1	○旋律の特徴を生かした音色や奏法などリコーダーの表現を工夫する。	【思】①ワークシート、聴取
	2	1	○重なり合う音色の響きを感じ取ってリコーダーの二重奏ができるようにする。	【技】②聴取、発音
		1	●「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を感じ取る。 ●どのように歌うか、思いや意図をもつ。 ○特徴を生かした歌い方ができるようにする。 ○グループで工夫した表現を発表する。	【思】①ワークシート、聴取 【主】①振り返りシート 【知】②聴取、発音

ポイント

評価の計画

評価規準、評価の計画、本時の評価との整合性を図る。

過程	時間	学習活動	備考・ICT機器等		
導入	5	1 「陽気な船長」での学習を振り返り、本時のめあてを共有する。 2つのせんりつ	鑑賞音源 歌詞カード 学習シート タブレット		
展開	35	2 旋律の特徴を感じ取り、主な旋律を歌う。	鑑賞音源		
		3 旋律の工夫する	鑑賞音源		
	5	(1) どのように歌うかについて思いや意図をもつ。 (2) 表現を工夫しながら歌い試す。	①前半は弾んだ感じを表すために息の使い方や発音に気付けて、後半はのびやかな感じにするために音をつなげて滑らかに歌ってみよう。 ②録音した演奏は、旋律の違いがあまり感じられない。もっと強弱やスタッカートを出そう。 ③友達と工夫したことと演奏を聴いてみよう。 ④弾んだ感じがいいな。	①思いや意図を伝えることを練習しよう ②【思】①旋律の違いを感じ取り、どのように歌いたいか思いや意図をもっている。 ③工夫したことと表現が繋がっているか視点を提示する。	鑑賞音源 ワークシート タブレット
		5	5 本時を振り返る。	○課題や変容を振り返り、次の学習や生活につなげよう。他の領域にも生かしていこう。 ○視点を示すことでめあてに対して振り返られるようにする。	振り返りシート タブレット